

編集発行:十勝とやま農場 〒080-2106 北海道帯広市美栄町西6線128番地

年4回のプログラム「畑の教室」 開講！ 2024年は小豆編

「一緒に考えてみませんか？私たちの生命や食べ物のことを」そんなテーマを掲げ、アスパラガスやコーン・じゃが芋など、単発の収穫体験を実施してきた3代目聖子の時代。日々食卓を彩る作物の一生をピンポイントで知ることを通して『生命、いただきます』を実感して欲しいと今年は畑の教室を開講しました。初年度は、小豆博士やあんこ職人とのご縁もあり「小豆編」として年4回+αで開催しています。種まきから生育状況として花の観察、収穫期には収穫の今昔を体験して頂くなど3回目を終了しました。現地での参加に加え、インターネット時代だからこそ可能になったオンライン受講もできるハイブリットな教室です。来年2月には、収穫した小豆を使ったあんこ作り+特典の発酵あんこ生産現場から食卓を繋ぎます。昼食には「お豆のくんせいやとん」さんのご協力を頂きお腹も満たされる企画です。ご興味のある方は、是非畑の教室特設ホームページをご確認ください。



現地での参加者は近隣や札幌からも



畑の教室
特設ホームページ
はこちら



7月には小豆の押し花で
はがきとしおり作り



現代はコンバインで
あっという間に刈り取り&脱穀



穀竿（からさお）で脱穀。
うまく使いこなせず笑いの渦が。
先人のご苦勞を偲ぶ体験でした。



農場の豆や野菜がたっぷり入った
手作りのお弁当

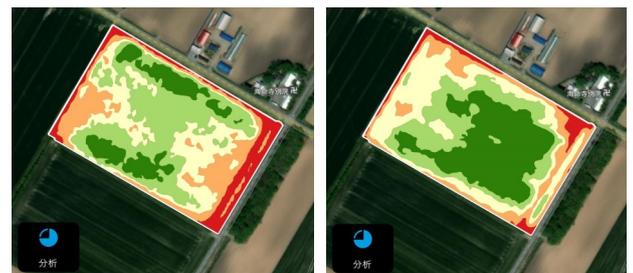
農場を宇宙から見る？ザルビオファームマネージャー

今年ドイツの農業資材メーカーBASF社のザルビオという衛星解析サービスを活用してみました。圃場内の生育差や圃場ごとの地力差、積算温度・雨量など現在の農場がデータでわかるアプリです。

＜ザルビオでわかること＞

- ・生育の悪い所をみつけて肥料などを増減し生育を助ける。
- ・期間中の生育ステージを確認し適切な時期に作業を行う。
- ・生育の悪い箇所の土壌分析をして根本にある原因を突き止め対処する、などです。

今年豊作とはいきませんでした。厳しい気候の中昨年反省を活かし著しい減収を防げたかなと思います。土や作物の力を信じつつ生育中に自分たちができることを一つでも多く取り組みたいと思います。



20日後の生育の回復が確認できます



お陰様で家族一同 元気になっています

2024年は昨年に続き 温暖化の変化をさらに感じた年でした。高温と特に雨不足が顕著でした。昨年の経験を糧に乗り越えられた事と課題が残る結果となる作物もありました。それでも皆様に収穫の喜びをお届けできることを嬉しく思っています。

徳男（94）ショートステイとデイサービスにお世話になっています。聖子（65）ダブルダッチ（縄跳び）に挑戦するもまさかの捻挫（'∨'）

寄る年波には叶わないことを実感する日々です。トホホ 暁子（43）念願のプールに久しぶりに行きました！お尻が重たいけど今年の冬はもっとゆったりと泳げるようになりたいな～

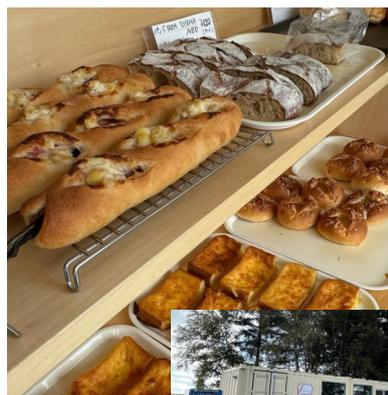
隆祥（38）アラフォーが近づく中、仕事の仕方を模索しています。

桂菜（小1）学校や学童が楽し過ぎて毎日パワー全開！ますますおしゃべりが止まりません。

楓夏（3歳）ねえねと一緒にオママごとやYoutube観賞を楽しむ日々。すっかりおしゃべりも上手になりました。食欲旺盛は相変わらず！

地域に愛される 畑のそばのパン屋さん

昨年12月にOPENした「ベーカリーシュマン」（岡田オーナーシェフ）お陰様でオープンから10ヶ月経つ今でも土日祝を中心に早々に完売する日があります。1番人気の塩バターパン。すっかり定番となったあんぱん。十勝産小麦100%の生地に地元生産者が育てた野菜のコラボパン「パンドファーム」が好評です。ゆり根、サツマイモ、アスパラ、じゃが芋、長ネギ、ブロッコリー、キャベツ、レタス等これまでに多くの創作パンが生まれてきました。地元の方ももちろん、観光客や近隣の農家さんのおやつパンとしても好評です。お近くにお越しの際はぜひご来店ください。詳細はInstagramにて



主演の東盛あいかさん(右)と共に

楓夏 『馬橋の花嫁』で銀幕デビュー

この映画は十勝出身の逢坂監督が出会った「馬橋に乗った花嫁」という雪原を走る馬と橋に乗った花嫁と親族の写真から起草を得て作成されました。昭和30年代の十勝地方を舞台に、開拓時代から結ばれてきた馬と人の絆、そして当時の人々の生活を描いた短編映画です。次女の楓夏が主人公の姪の「戸山 幸子」役、暁子が近所の女性として登場しています。DVDが発売されています。

☆映画を鑑賞して☆今でこそGPSを搭載した大型トラクターと精密機械が各地で活躍していますが、わずか半世紀前までは馬が開拓を支えていました。やがて機械化し現代へと繋がる先代の暮らしと原風景を垣間見た気がします。

編集後記

映画『馬橋の花嫁』の試写会の際、ゲスト登壇されたJA川西組合長の有塚氏（93歳）は、十勝の開拓にアイヌ民族の協力が欠かせなかったことを話し感謝された。当時は物資も乏しく温暖化した近年と異なり、厳しい寒さと冷夏に苦難の連続だったとのこと。厳しい自然環境の中で暮らし、すべてに神が宿っていると捉えるアイヌ民族ゆえ、出産や暮らし方、山野草の食べ方等など和人の開拓を支えてくれた歴史を初めて知ることができた。その2か月前、アイヌの母神として活動する宇梶静江さん（91歳）とショーゲンさんとの対談を聞く機会に恵まれた。宇梶さんは現在でこそアイヌ民族としてその精神性や文化など誇りを持って伝える活動をしているが、60年間も自分がアイヌ民族であることを隠し続けてきたと話された。当時の差別や偏見がそうさせてきたことを想うと胸が痛む。アイヌ民族の貢献と苦悩の歴史を十勝に住むものとして感謝をもって胸に刻んでいきたい。

聖子

毎週日曜21時から
嫁姑対談ライブ配信中！



とやま農場

編集・発行 合同会社 十勝とやま農場
産地直送 十勝とやま農場
サウナ付き宿 カンノンサウナ
宿泊施設 ファームインビエイ
パン屋 ベーカリーシュマン

〒080-2106
帯広市美栄町西6線128番地
Tell&Fax 0155-60-2110
メール info@toyama-nojo.net

